

2020年10月8日（木）卓話 『窓について』 柿岡 守一

私は、40年弱、アルミサッシに関わっています。

◆サッシについて

昔は、木製（木の建具にガラス）サッシが主流でした。

住宅に関しては、アルミサッシ、工場・学校等はアルミサッシを使用していました。徐々に、引き違い戸のサッシが出てきて、木製は消えていきました。

引き違いサッシから機能性のある雨戸付・シャッター・装飾窓と種類も豊富になっていきます。

装飾窓の中でも、ハンドルを回転させて、羽根状のガラス板を一斉に開閉できる、ルーバー窓を、お菓子メーカーである明治製菓が最初に作りました。

「明治ジャロジー」ルーバーの角度調整が自在で、通風や換気ができます。

その後、明治アルミ工業は、三和シャッターに吸収されました。

次に出てきたのが、「樹脂サッシ」です。断熱性が良く、結露しにくいサッシです。そして、混合サッシが主流になってきました。

混合サッシとは、外側がアルミで内側が樹脂のサッシです。サッシが変わることにより、ガラスも変わっていきました。ペアガラスは、10年以内に内側が曇ったら、メーカーが保証するということを、知らない方が多いと思います。ただし、ガラス交換はしません。

昨年より、「強化ガラス」の需要が多くなってきました。台風の影響です。

現在、雨戸からシャッターに主流が変わり、出窓はほとんどなくなりました。時代によって、サッシも変わっていきます。